

総務産業委員会報告書

平成28年3月14日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

委員長 田 原 隆 雄

平成28年3月14日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

<参考送付の審査>

- 無電柱化の推進に関する法整備を求める意見書について

<報告事項>

- ひなせかき祭りについて（まち産業課）
- 備前ブランド体験キャンペーン事業について（まち営業課）
- 南方つり堀公園について（吉永総合支所）

<所管事務調査>

- 観光振興について
- 道路整備について
- 公園整備について

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
参考送付（委員会発議）	2
報告事項	5
所管事務調査	10
閉会	18

総務産業委員会記録

招集日時	平成28年3月14日（月）	予算決算審査員会 総務産業分科会閉会后		
開議・閉議	午後2時17分	開会	～	午後3時45分 閉会
場所・形態	委員会室A・B	会期中(第1回定例会)の開催		
出席委員	委員長	田原隆雄	副委員長	川崎輝通
	委員	山本恒道		尾川直行
		掛谷 繁		西上徳一
		石原和人		
欠席委員		なし		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	田口健作		
	委員外議員	なし		
	紹介議員	なし		
	参考人	なし		
説明員	まちづくり部長	高橋昌弘	人口減対策監 兼まち創生課長	中島和久
	まち産業課長	丸尾勇司	まち営業課長	梶藤 勲
	まち整備課長	平田惣己治	上下水道課長	藤森 亨
	日生総合支所長	星尾靖行	吉永総合支所長	高山豊彰
傍聴者	議員	津島 誠	立川 茂	森本洋子
		星野和也		
	報道関係	なし		
	一般傍聴	なし		
審査記録	次のとおり			

午後2時17分 開会

○田原委員長 ただいまの出席は7名です。定足数に達していますので、これより総務産業委員会を開会します。

***** 参考送付（委員会発議） *****

最初に、お手元へ配付していますが、無電柱化を推進する市町村長の会から無電柱化の推進に関する法整備を求める意見書の送付の要望が来ています。議運でこれを皆さんで協議願うようにということで、まずこれから入りたいと思います。

○掛谷委員 時代の流れの中で、岡山市あたりも相当に無電柱化が進んでいる、備前市の場合は伊部駅のところぐらいしか見当たりません。大きな流れの中では、これはこういうことがあってもいいというように私も思っています。

お聞きしたいのは、国の補助金なり県の補助金なり、備前市がやるなら備前市が出さないといけないが、国としてどういった扱いをやっているのか、補助金関係です。これは大いにやりなさい、法整備ができてないからしてくれということでしょうか、現在そういった補助金等の状況はどうか。

例えば、伊部なんかやったわけだが、どの程度だったのか、わかりやすいと思うので、教えてください。

○田原委員長 これは議会へ来ているが、市のほうのこういう動きについてはどうかということ結構ですから、いかがですか。市へは来ていないのか。

○平田まち整備課長 経緯について御説明をさせていただきます。

この無電柱化の法整備に係る件については、昨年9月に奈良県の葛城市の市長が呼びかけ人となり全国の市町村長へ無電柱化を推進する市区町村長の会を設立したいので、入会してほしいという呼びかけがありました。こういった背景には、現在国のほうで例えば景観ですとか交通安全あるいは防災といった面から、無電柱化をぜひ強力に推進していきたいということで法整備を進めており、その法案を早期に成立させたいということがあり、そういう中で全国的な機運を高めたいということで全国の市区町村長へ呼びかけがあり、会を設立しようということになったものです。

備前市でもこうした趣旨に賛同して、9月に呼びかけがあった直後に入会しています。その流れの中で、1月にそれぞれ入会した会員の市区町村議会に意見書を出してほしいという依頼が来たということです。そういったことで、備前市としては入会しているわけですが、特別具体的な事業プランがあるのかといえば、そういうような状況ではございません。今後、どこかで出てくる可能性もある中でとりあえずは入会をして、国の動向とか全国の市町村の動向など、要は情報収集の意味合いというものが主眼というふうに考えています。また、その入会については会費も無料ということもあったので、即入会をしたものです。

そういった段階にいるので、事業の具体的な内容についてはこれから研究をしていくということで、掛谷委員がおっしゃられたような補助制度云々については、今のところちょっと情報がな

いので、またこれから研究をしたいと考えています。

○田原委員長 議員発議ですからね。

○掛谷委員 それはわかっています。ただ、もう7年前ぐらいか、伊部で無電柱化をやっている。そのときにはどういう結果になったのかというのが、備前市では参考になると思うが、すぐには出ませんか。

○高橋まちづくり部長 記憶が今ごろだんだん薄らいできているので、違うことをかなり言うかもわからないが、そのあたりを考慮して聞いていただきたい。

あの事業は半地中化という形で完全地中化ではございません。というのが、歩道が3メートルあれば地上に変圧器とかを設置、岡山市あたりでは電柱は無電柱になっていますが、ボックス的なものが200メートルから300メートル置きにあると思う。それがトランスにかわるようなものだという理解でいいと思います。そういうものを設置すると、歩道幅が非常に狭くなるということで、伊部の例で言うと、街路灯、照明中にそういう変圧的なものを載せた施設で半分線が見えた、半分地中に隠れたというような半地中化ソフト事業という形で実施をしました。

その中で、国からの補助はたしか50%、残りの分については市の負担という形で、その残り分についても起債の対象になったと記憶しているが、ただあそこの例で言うと、NTTと中電、それからon i ビジョンでしたか、参入したいという形で、ある程度予定のあるところは事業者が参入してきたと。その部分については、もし自社がそこを地中化するのであれば、それなりの工事費が伴います。その部分を負担金として、金額は覚えていないが、雑入か、負担金としての収入があったように記憶しています。延長的には200、旧道から2号線までの間だったと思います。そういう形で実施して、とりあえず線的に1路線だけ整備したという状況です。その程度しかちょっと今記憶にございません。

○田原委員長 参考になりました。

○川崎副委員長 今ごろテレビを見ていると、世界で一番美しいところとかが出る都会の世界遺産みたいなどころを見ても、全てもう看板から統制がきいて、一切の線が見えないという、ヨーロッパというのは地下道というか、そういうのが歴史的に全て排水から配線からやっている関係であれだけきれいなのかと。岡山市のようなああいうボックスは全然ないわけです。

やはり、歴史的な違いはあるが、今国と市が半々だということ言っているが、実際は民間の中国電力という営利企業がやっているのであれば、実際に道路を邪魔して事故のもと、台風であれば感電して死ぬ方も出る。そういう状況を考えると、私に言わずと50%以上中電が払って、あと国や市が美観のために援助するというのが基本ではないかと。もうこれだけ生産力が発達した日本において、いまだに空を見ればクモの巣のような見にくい状態が続いているというのは、美しく、観光客に気持ちよく来ていただけるということであれば、まずメーンの、人の交差するところからだんだん地中化、それも営利会社にそれなりの負担というのは、私は当たり前と思います。

ただ、もう日本の場合、私らも海岸線だから、岡山市のようなボックスが地上にあると、それ

こそ高潮、津波となると、一挙に停電になると。だから、そういう意味では、地中化はいいが、そういうボックスはやはり電柱か何かにしてある3メートルか5メートルの高さに維持しないと、海岸線なんかは無理という考え方も持っています。ヨーロッパのような大陸であれば、津波もなければ地震もないというような状況の地理的状況、歴史的状況が違うが、やはりこういう勇気を持って無電柱化をしようというのは、21世紀の日本を目指すときに下水道とともに最も環境美化、美意識というか、都市計画がどうあるべきかと、ローマは一日にしてならずという言葉もあるが、確実にそういうことをヨーロッパはやってきたわけだが、日本はたった100年ほどの近代化という中で合理化というか、利益追求の、政府も悪いと思うが、大都市からでも結構ですし、我々田舎でも中心街からやはりそういうことを推進する法律はぜひつくってもらい、電力会社と公共団体の分担については国に仲裁してやっていただけたらいいと思います。

○田原委員長 それでは、無電柱化について推進するべきだという合意が得られれば、そうしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、異議なしと認めて、総務産業委員会から意見書を発議するという事で異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、そのようにいたします。

この意見書の文案が届いていますが、一応統一的な文案であると思うが、いかがでしょうか。

○山本委員 これは、本当に実現しそうなことか。何にもしないのにこのような話だけが進んで、話では写りがいいと思うが、それこそ身丈に合っていないのではないか。するのであれば、次はどこをするぐらい、部長、閑谷学校ぐらいか、観光といえば。

○高橋まちづくり部長 ここで私的な意見を言うのは適切ではないが、閑谷学校もそうですし、伊部の旧道沿いの、あそこを無電柱化で整備することは極めて必要なことかと。地区で言うと伊部の旧道沿いですか。

○田原委員長 山本委員、今……。

○尾川委員 実質的なことを聞きたいが、岡山のはたしか道路の下にかなり大きな隧道というか、あれがあり電線、水道管、ガス管といろいろ入れていると思うが、そういう工事は伊部の場合はどのような仕組みになっているのか。

○高橋まちづくり部長 岡山市なんかに入っているのは共同溝、あの中に電柱も入っているでしょうし、上水も入っているでしょうし、いろんなものを総合的にその中へ入れ込むと。それから、歩道でしているのはキャブ工事という、あれが特に電線類を主に入れていたものです。うちで言うと、もう基本的にはそういう共同溝もないし、将来的にもないでしょう。キャブ工事もまずないと思います。だから、うちの場合は下水と上水と、場合によっては中電が入っていること、NTTが入っていると、単独でそれぞれの企業が入っているという実態です。例えば市街地を形成しているところは、今言ったような形で一括管理していく部分が、地中に入っていった複

層してガスも入っているでしょう、電気も入っているでしょう、工事のたびに一定程度事業者調整をしながら、会社調整をしていくというよりは、4メートルとか、トンネルの中へ事業者ごとのものを区分していくというのが維持管理上も何かあったときも非常に対応しやすいということの趣旨だと思います。

○田原委員長 執行部は、今具体的な計画はないが、こういうものに手を挙げていてもらっておけばいいのではないかとということでもあるし、今議決をいただきました。

今は文案をどうするかというところです。

○川崎副委員長 この意見書案でいいと思います。

○掛谷委員 ただ、意見書の提出先は、衆参両議長はもちろんいいが、総理大臣には出さなくてもいいが、国土交通省とか所管の省庁はあったほうがいいのではないかと。

〔「国交省と環境省」と呼ぶ者あり〕

○田原委員長 一応、推進する市町村長の会の希望は衆参両議長ということですが、統一的な意見書ということなので、そのあたりを調整して、文言も含めて委員長にお任せ願えますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

そういうことでよろしくお願いします。

最終日にこの委員会から発議させてもらいます。

***** 報告事項 *****

報告事項に入ります。

○丸尾まち産業課長 ひなせかき祭について報告をさせていただきます。

先月2月28日、13回目となるひなせかき祭を開催しました。ことしのカキは実入りもよく、当日は天候にも恵まれ、4万人の方が訪れ会場は大勢の方でにぎわいましたが、大きな混乱もなく無事に終わりました。今後については、また実行委員会等で検討したいと思っています。

○梶藤まち営業課長 手元に先日お配りした報告資料をお開きください。

備前ブランド体験キャンペーン事業、備前市活性化研究ツアーを先日3月2日から3月4日の3日間で行いました。目的として、地方創生事業の一環として首都圏を中心とした大学生を本市に招聘し、市内観光施設をめぐるほか、備前ブランドの魅力に直に触れてもらい、観光による地域の活性化を学生目線で一緒に考えてもらうことを目的として実施しました。参加者として、東京大学から10人、東京学芸大学から7人、その他大学生で国際ボランティア学生協会に所属の大学生が23人、計40人が参加しています。参加者の所属の一覧を2ページ目につけています。

3ページ目をお開きください。

こちらがツアーの行程です。東京駅から岡山駅まで新幹線に来ていただき、そこからバスで備前市まで来ていただいています。鷹取醤油、伊部の町並み散策、備前焼の土ひねり体験、その後閑谷学校に入ってもらい、19時から地方創生とか備前市の観光についての研修を行っていただきました。次の日に閑谷学校で論語体験等をしてもらい、日生へ来ていただいた後、頭島南小学

校で小学生たちと触れ合い、その後諸島めぐりをし、カキオコ等を食べてもらった後、日生町漁協において里海についての勉強会とカキむき体験、あと地域おこし協力隊をコーディネーターとしてグループワークをしてもらい、いろいろな意見を伺いました。3日目に日生から吉永を歩いてもらい、田倉牛神様と八塔寺ふるさと村、あと片上のひなめぐりをしていただき、帰路に着いていただいた。

4枚目以降がその様子の写真となっています。

まとめとして、全行程を通して市内の観光施設や体験メニューに触れるなど、市内をしっかりと見ていただいた。あと、2日目のグループワークは地域おこし協力隊をコーディネーターとして迎えて、参加者を6つのグループに分けてワークショップを行いました。各グループからは、閑谷学校を活用した日本遺産第1号ツアーや備前焼のビヤマグをする等の備前焼のさまざまな活用方法について提案がなされています。今後、各グループから提出された企画や提案及び参加者からのレポート、3月18日ぐらいを期限としてレポートの提出を求めています。それらを検証して、備前市の活性化につなげてまいりたいと考えています。また、今回の大学生や学生のボランティア協会等とは、今後も交流を引き続き行い、市の活性化につなげてまいりたいと考えています。

○高山吉永総合支所長 南方つり堀公園について御報告させていただきます。

この公園については、これまで指定管理者である南方老人クラブから3月末をもって指定管理者の取り消しの要望書が提出されたことと、1月の指定管理者候補者選定委員会において3月末で指定管理者の取り消しが決定したこと、それから今後の構成について検討中であることを御報告しています。

これまで検討してきた中で、経費的には直営であるとか指定管理者制度など、いずれの方法でも現状以上の経費が見込まれること、公園の栈橋等施設が老朽化しており、年々利用者の安全確保が厳しくなっていることがわかっています。そういうことから、現時点では現状のままでの継続は厳しいと考えているが、今後釣り堀として無料開放する方策であるとか、散策を中心とした公園での活用など、ほかの方策も含め最終的に結論を出したいということで考えています。

そういう中で、3月末で指定管理が切れて施設の運営がもうできないので、一旦4月から休園にさせていただきたいということで考えています。最終的には、28年度中に先ほど申し上げたような方策も含め最終的な結論を出したいというふうに考えています。

○田原委員長 ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、ただいまの報告事項に対する質疑を。

○川崎副委員長 40人の学生に来ていただいたというのはありがたいことだが、芸術大学と東京大学は教育学部ということで、子供の教育、学校施設の見学ならそれでいいが、こういう科で十分に地域おこしのことが研究されているのか。ほかの大学は、経済学部とか法学部、マネジメント学部、いろいろ総合科学的な提案をしていただけるような専門の学生に来ていただいている

が、東京大学と東京学芸大学はどういう関係でこうなったのか。備前市のやはり全ては子供たちのためにというスローガンのもとでこういう学生が集まったのか。経過なりの説明をお願いします。

○梶藤まち営業課長 東京大学と東京学芸大学については、文科省のコンシェルジュに地方創生についての教授という方を紹介していただいた。そちらの教授がこちらの学生の研究室の教授ということで、そちらの教授については地方の地域活性化とか、生涯学習とか教育を通じてという形での活動を非常にされています。また、その教授と付き合いのある隣の研究室の教授とかという方ともお会いして、非常に地方創生について賛同をいただき、ぜひ参加したいということでこのツアーに教育学部という文言の学部になっているが、地方創生、地域活性化について非常に興味深いと、興味を持っている学生についての参加ということでの参加になっています。

○川崎副委員長 しっかり提出レポート、中身を期待している。

○尾川委員 体験キャンペーンで、その学生の出身地は、どこが多い少ないとか、わかれば教えてもらいたい。

○梶藤まち営業課長 具体的に出身地を集計していないが、話をする中で、やはり東京出身という方と地方出身という方、地方出身の方が多かったと思うが半々以上、地方出身でも例えばカキむき体験をしていただいたが、その後焼きガキを食べたり、旅館に帰ってカキフライを食べたりとか、いろいろ食べてもらったが、やはり今まで食べた中で一番おいしいという話をいただいたり、やはり自分も田舎なので地元に対する愛が深いと、逆にこちらで体験したことを鹿児島の方だったが、鹿児島の地元に戻って自分は活動したいんだと、そういうことにどんどん生かしていきたいというような話もありました。東京の方については、東京から出たことはほとんどなかったと、こういう田舎の体験を通して日本というのをもっと考えていきたいというような話もありました。

○尾川委員 東京、鹿児島というのはわかった、個人情報もあるが、ある程度どういうところから参加したのかというのは特定の名前まではいいとしても、そのくらいの情報はやはり必要だという感じがする。次にそういう機会があるなら、地域、どこの出身といえ、そのようなことを言う時代ではないが、ある程度データは持っていたほうがいいと思うが。

○梶藤まち営業課長 いろんなデータを集めて、今後検証の参考にできたらと思うので、集められるデータについては集めていきたいと考えています。

○山本委員 費用はどれぐらいかかっているのか。

○梶藤まち営業課長 業務委託している部分について495万7,200円をかけています。

○山本委員 1人で大体10万円ほどか。どうせ町に帰る人ばかりで、物見遊山に来ているのではないか。

○梶藤まち営業課長 物見遊山という方ばかりではないとこちらも考えています。また、物見遊山にならないような形でレポートの提出とか、今後の連携を深めていければと考えています。

○山本委員 韓国へは職員が2、3人ついていった話を聞いたが、このたびはこっちで受けて連れていっただけか。

○梶藤まち営業課長 職員については、東京にいる職員で、東京から岡山へ随行してもらい事前のオリエンテーションとかをしていただいています。あと、ほぼ半数を占めている国際ボランティア学生協会の学生については、ほとんどの学生が2泊3日で備前を過ごした後、その後鹿久居島へ行ってボランティア活動しています。そのボランティア活動の合間、私どもの職員と一緒に話をした中で、2日目のグループワークについては非常に時間が短く、もっともっと自分たちは案が出せたという形で、その日についてもいろいろ皆さんで案を出し合ったりという形でのすごく熱い話し合いが行われていたみたいです。その辺を伺っても、幾らかの成果が期待できるのかなど。もしくは、その成果自体ではなく、そういうつながりが備前市と学生の間に来たということが非常に今後つながっていくと私としては考えています。

○山本委員 ふるさと納税をたくさんもらったからといっても、もらった以上は市民のものだから、貴重な税金だから、厳重に大切に今後使っていただきたい。

○石原委員 備前ブランド体験キャンペーン事業は、たしか1年前のこの議会に補正予算として、国からの交付金も含めて計上されたものであったと思うが、そのときの提案理由、事業内容の参考資料の中に、提案時点では首都圏の（東横沿線の自由が丘など）の女性向けに備前体験招致旅行の企画、電車内広告、フリーペーパー、ケーブルテレビ、FMラジオ等で本市の宣伝等PR、企画のための業務の委託料、計1,000万円ということで若い女性、いろいろ事情もあると思うが、東横沿線の自由が丘というような限定もされて提案があった中で、それがなぜこういう形で関西圏の大学生も含めた大学の子に、大学生に内容が変わったというか、ターゲットが。説明いただきたい。

○梶藤まち営業課長 委員おっしゃられたように、当初予算の提案時点の話の中で東横沿線とかという話が出ていたと思います。この事業自体をなぜ東横沿線とするのかというのは、やはり情報発信というのが非常に大きな部分を占めていたということで考えています。この事業自体が地方創生の中の一環ということで、職員の中でもいろいろ話がありました。そういう情報発信の敏感なところでの情報発信をして、若い女性、情報発信の得意な若い女性を呼んでくるということも確かにあると。その中で、さらに深い話がじゃあどうやったらできるのかという中で職員同士で話し合っ、どういう募集の仕方ができるのかということで話し合った結果、文科省のコンシェルジュのお話が聞けたりとかという中で、地方創生をいかに進めていくかをツアーで考える上で、本当に誰を呼んだらいいのかということで話し合った結果、学生という結論に至ったものです。

○石原委員 おいでいただいた方、学生も確かに若い方なので、しっかり備前を体験していただき、PRもしていただければいいが、先ほどの経費の説明を受けても、40名、495万円余りでかなり経費も、首都圏からいろいろ来ていただいたら、1人当たり1泊は閑谷学校へ泊まりながらも12万円程度、結構経費もかかるということと、今後についてはこういう事業、計画立て、予算づけをされる際にしっかり精査をされて進めていただかないと、これも何か際限なしに経費が膨らんでいくという思いを抱きました。

この事業で、大学生が来られた事業をもって、決算はまだだが、いろんなPRとか含めて予算のほぼ1,000万円は使われたということで認識してよろしいか。

○梶藤まち営業課長 これ全てとは言いにくい部分があるが、これが主な事業で使用したということで考えていただいていると思います。

○田原委員長 ほかに。

○掛谷委員 かき祭で4万人、この経済効果はどれぐらいか。問題点は、もう事故等は一切なかったという話だが、座るところがないとか、待ち時間が長いとか、そういうことがわかれば教えてください。

○丸尾まち産業課長 経済効果までは試算してはいないが、今回のテントに関しては、観光協会等を通じて市内の方に参加していただいたので、その件については市内の活性化にはなっているであろうと思っています。

○掛谷委員 4万人が全部食べたわけではないと思うが、1つのかごに、1つで幾らですか。

○丸尾まち産業課長 カキについては、いろんな量によって単価は変わってはくるが、そういったカキオコを含めていろんな店の中で、カキを含めていろんな人が買っていたと思います。今回については国道を含めて大きな渋滞、混乱はなく、スムーズに通行できたと聞いています。

○田原委員長 ほかに。

○掛谷委員 つり堀のことで、南方の指定管理、これは指定管理料が少ないのか、もう高齢化でこらえてくれというのか、どれぐらい今利用されているのかということと、休園をするが、28年度中には何か再開をという、この見通しはどうか、その辺教えてください。

○高山吉永総合支所長 現在利用者としては、大体年間500名程度の方が利用されています。主には、愛好家の方でリピーターの方が多いというふうには聞いています。

先ほど申し上げたように、4月からはもう休園という形でさせていただき、その検討の中で最終的にどうするかということではあるが、現状では先ほど申したような状況なので、なかなか同じような形での再開は厳しいという考えています。ただ、先ほど説明したように、違った形での活用等も含めて検討した上で最終的な結論を出すということで、28年度中にはどういう方向になるのかというのは改めて報告をさせていただけたらと思います。

○掛谷委員 28年度中ということとは来年の今ごろに決まれば、もうほとんど1年間はやらないということだが、棧橋の老朽とか指定管理がこれからうまくいくのか、直営なのか、そういうことでしょうか。でも、市民から聞かれたときにわからないというしか言いようがないわけです。だから、もうちょっとこのあたりは本気になってやられるなら、半年ぐらいかけて決めていくとか、そういうような方向はどうでしょうか。何人かいるので、わからないではあんた何しているのかと、それこそあるわけです。

○高山吉永総合支所長 もちろん、結論については結論が出次第ということになるので、一番長くかかっても来年度の当初予算等にも関係してくる部分があるので、そのあたりまでには決めて

いく必要があるというふうには考えています。

先ほど答弁漏れのあった指定の取り消しの申し出があった理由についてですが、一番大きいのは、これまで南方区の老人クラブの中でたくさんの人で対応していたが、最終的に28年度から対応できる人数で聞いているのが8人までに減ってしまったということで、土日、祝日9時から4時まで開園しているわけですが、その対応が8名ではどうにもならないということで最終的な申し出があったというふうに聞いています。

○掛谷委員 しっかりお願いします。

○田原委員長 以上で報告事項を終わります。

***** 所管事務調査 *****

所管事務調査に入りたいと思います。

委員の皆さん方からの問題提起をお受けします。

○掛谷委員 観光についての調査を皆さんとともに願いたい。

先ほどから観光について、観光バスツアーもやったりいろんな形で補助金を、かき祭から観光絡みでの補助金もいっぱいある。何が言いたいかと言えば、観光というのは、備前市は教育のまち備前というのが一番メインでしょう。その次は何かと考えるとやはり観光かなど。観光の町備前市でもあるわけです。

私も、前々常々から観光に関する条例なり、振興計画を立てるべきと、それがなくして単発でこのようなものをやるというのが今現状ではないかと。やはり、振興計画を立てながらやってもらいたいというのが私の意見です。各委員の意見をいただきたいが、たしか去年土岐市に行政視察に参りました。土岐市には、焼き物を中心にした土岐市観光振興計画があり、その中には推進協議会をつくりながら計画を練っている。それに対して、外部の有識者、コンサルタント、専門業者の助言をいただく。そして、協議会の中には市民や宿泊施設や陶磁器の組合、商業事業者、飲食業、商工会議所等々、関連した観光協会を含めて入って、そういう観光振興のやり方というものを毎年毎年練りながら継続的にやっているわけです。

ですから、単発でこれがいいと言ってポーンとやるというやり方では、やはり備前市の観光というのは一体何なのかと思うわけです。正月からいえば、日生の源平の放水合戦も観光の一つでしょうし、かき祭もあればもういっぱいある。そういう意味で、観光に関することについてのちゃんとした計画をつくってやるべきだと私は思うが、委員の意見も聞きながら、そして当局はどう考えていこうとしているのか、まずそこの辺を伺いたい、どうあるべきか。

○梶藤まち営業課長 委員がおっしゃるように、備前市の観光の全体像を考えて進めていくというのは非常に大切なことだと思います。その中で、今の備前市でどんな振興計画があるのかということですが、今現在備前市の観光に対する振興計画はないというのが実情ではないかと思えます。と言うのも、やはり今までの観光行政のあり方として、既存の祭りとかイベントとかを維持していくということにもう窮していたのが現状ではないかと思えます。そういう中で、今後委員のおっしゃられるように観光を進めていく上では、そういうしっかりした将来像を掲げて、それ

に対する予算をしっかりとって進めていくということが必要ではないかとも考えています。

○掛谷委員 部長も一言。

○高橋まちづくり部長 私も、先ほど課長がお答えしたとおりだと思います。今後は、やはり基本となる振興計画の策定というのも重要だという認識は持っています。それぞれの事業施策が一つのその計画に基づいて一貫性を持って、継続性を持って進めていくということは非常に大切なことであるというように思います。まずは、そのあたりの推進協議会的なものの立ち上げの研究から一歩進めていくべきと思っています。

○掛谷委員 前向きな答弁なので、あとは執行部が市長初め本気になり、それをやられるかどうかということになると思う。土岐市の場合も、人が集い交流し地域が潤い輝く土岐、こういう基本的なコンセプトもあり、キャッチフレーズ、とき・めき発見とか、本当にちゃんとした基本方針を立てながら、どうやればこの町に観光客がたくさん来るのかということの本気で考えている。また、地域地域によりやはり魅力があります。その連携もこうやってやるとか、場合によっては瀬戸内市、和気町、岡山市、赤穂市と連携もできる、していかなければならないと思う。ぜひこれを28年度、そういうものは入っていないが、しっかり練っていただきながら今後の備前市の観光に対する、なぜか言えば、もう備前市というのは観光動態、交流人口というのは載っていない。1番が倉敷、2番が後樂園、3番が蒜山、4番が玉野の渋川、あとはもう本当載っていない。前は70万人ぐらい来ていたが、100万人を目指すとっていたのが、いつの間にかどんどん減ってきているわけです。バスという問題もあるし、どうすれば観光客に喜んで来ていただき、今回はいい案も出ているがバスの台数もどんどん、もう単発というよりも本当にしっかりした施策を、計画を立ててやるべきだと思うので、頑張ってください。決意のほどを部長、もう一度で終わりたいと思います。委員、何かあったら言ってください。

○田原委員長 まず、部長の答弁からお聞きします。

○高橋まちづくり部長 私もまだ来年、再来年があれば頑張りますと、こう力強く言えるが、もうこの3月末で退職なので、委員のおっしゃることを残った人によく引き継いで、ぜひともそういう指針になるべき振興計画書ができるような形で引き継ぎ等もしておきたいと思います。

○川崎副委員長 観光名所、ないことはないという点では少し、全く農村地の農村とか、そういうところに比べればカキオコもあるし備前焼もあるし、八塔寺もあるということで、観光協会がやっと一つになったわけです、ことしから。そういう意味では、観光協会との連携をして、もっともっと観光客に来てもらう施策、交通手段であり、また宣伝をどうするかと、もう一つ私は地元が日生なので、地場産業と言えれば漁業ですが、特にカキがことしはまあまあよかったが、お隣、同じ千種川の下流である赤穂漁協は、1世帯当たり多いところは9,000万円から1億円いっている。だから、日生のトップクラスの大体倍近い。やはり、どういうブランド商品をどういう形で売っているかというようなこともぜひ、私は相当言っているが、なかなか分析等やれていないという現状なので、日生町漁協の運営の仕方もあるが、ぜひもっと観光客にも来てもらいたいし、宅配とかで全国へ日生ガキ、今、県漁連は岡山ガキか何かでやっているが、やはりブラ

ンド化でぜひ機関車的な役割、備前焼にもなってもらいたいが、時代、状況がどうも土岐市のようにはっていないようなので、私はまだ一つの突破口は、カキと底びきによる瀬戸内の魚、これはもう今温暖化のためか、すごく漁獲量が減っているから、一昔みたいに一せいろ本当に何百円かで大きなシャコが売られた時代があった、私らの子供のころです、今から四、五十年前です。そこまでいかないにしても、カキを中心に改めて瀬戸内のおいしい魚の戦略を地場産業の活性化とともに練れば、相当の観光客を動員できる推進力にはなるというふうに思うので、ぜひ観光協会、地場産業の漁業、商工会と共同、合作で推進していただきたいということを要望しておきます。

○田原委員長 かわってください。

○川崎副委員長 かわります。

〔委員長交代〕

○田原委員長 今の意見にも共通することだが、私は一般質問にこだわります。観光協会は一本にした、備前の人口では一本で結構ですと、人口規模では1つで十分だと、それはまあいいでしょう。次に出てきたのは、観光協会というのは会員のためにすればいいと、予算の範囲で会員のための仕事さえすればいいという答弁、どなたが書いた答弁を読んだのか、市長の考え方が知らないが、まず本当にそう思っているのか、どうなのか。担当として本当にそう思うのか。あなたの意見、市長の意見。

○高橋まちづくり部長 市の考え方です。

○田原委員長 そしたら、もう観光行政だ、観光で人を呼びますというのはやめたらどうか。

○高橋まちづくり部長 いや、やめるわけにはいきません。観光協会、会員のためにということが、ひいては備前市の観光のためにというつながりに展開していくというつもりでいます。まずは、備前市の観光全体について観光協会、何とか考えてくださいではなく、まずは会員のためによかれと思うことが結果的に備前市の観光の部分へ展開していくというような認識でいます。

○田原委員長 先ほど、掛谷委員が観光振興計画を立てられたらどうですかという話をした。当然だと思し、そのために政策監という人たちが寄ってたかって一つにしたわけでしょう。そのときに1,200万円から1,500万円ぐらいの経費が一本にしても要るということをあなたたちが提案をして、一つの観光協会に集約したわけでしょう、備前市の観光が大事だということで。それを330万円で結構ですというたら、それでなおかつ330万円以内で仕事をすればよろしいと、そういう予算でしょう。私たちは提案できても、予算編成権はない。結果はそういうことですよ。

それで、あれせえ、観光ボランティア協会はじかに渡しましよと、昔は観光協会の事業の中にそういうものがあつたでしょう。先ほどの1,000万円で呼んでくる事業にしても、観光のためにやるのであれば、そういう人と一緒になり1,000万円を使う人を呼ぶ方法については一緒に考えましようということが観光振興になると言いたい。いかがでしょうか。

○高橋まちづくり部長 委員長の言われるとおりでと思います。

○**田原委員長** そういう中で今、日生に観光協会がある。あれは日生の観光協会ではないです、誤解をしないように。備前市の観光協会、一本にした一体化した観光協会がたまたま日生に事務所があるだけです。家賃は要らないようにしてあげていると思うし、伊部の伝統産業会館へ今度は無料で観光ガイドの事務所をつくってあげて、そこへ事務所を持ってきたほうがいいのではないか。備前焼を中心の観光、備前焼、備前焼というのであれば。そういうこともひっくるめて観光振興をどうするのかということを考えないといけないのではないか。

○**梶藤まち営業課長** 観光協会の事務所を伊部にという話がありました。確かにそういう考えもあると思うので、今後いろいろ協議をしながら備前市にとってどういう形がいいのかということも話を詰めていけたらと考えています。

○**田原委員長** そのように何もかも市が抱いてしまわなくても、みんな一生懸命でまちづくりをしないといかけないのではないかということをお願いしたいわけです。

最後に、この間のときに星尾支所長に聞き漏らしたわけだが、物揚げ場の観光駐車場の件、実際どうなっているのか。数字的なものがもう一つわからない、とにかくもう経営に行き詰まって、自分たちの世話すらできにくいような状況だということなので、その辺はやはり考えてあげないといけないという問題提起だけしておきます。数字的なことがわかれば、幾ら入って、こうなってこうなっているという、その辺の会計は。

○**星尾日生総合支所長** 観光協会から使用料として県へ約370万円程度支払いをした後、予算書149ページ、港湾管理費の中で161万2,000円組んでいる。それが観光協会へ返ってくるということになります。ですから、200万円少々観光協会の持ち出しみたいな形になるが、観光協会は駐車場でもうけた収入で対応するという形の経理と思っています。そこで、それ以上のものが出ているか出ていないかという、駐車場でもうけた金が年間どのくらいあるかというのは、私はちょっと確認していないが、そういう形になっています。

○**田原委員長** 370万円県に払う、それで収入は160万円、差額がざっと200万円ほど、それだけ分が駐車料金で入ってくればとんとんになるが、その駐車料金がどうなっているのか。

○**星尾日生総合支所長** それは、観光協会の収入ですので、こちらはそこまで把握していませんが、約1年架橋により減っているのではないかというふうには思っています。

○**田原委員長** そう言って突っ張るわけ、あなたたちは。だけど、商工会なり商工会議所に補助金をカットしたというのは、その実績を見た、十分やっつけていけるという、前年度実績を見た中で予算組みをしていると言ってあなたたちは答弁してきている。商工会の決算も見た、商工会議所の決算も見た、余剰金のあるところには補助金は一切出しませんと答えながら、赤字で実際困っているところについては、それはあなたのところのことだから、私は知りませんと言っているわけだ。へっちゃらであなたたちは、そう言っている。矛盾があるよ。私もここへ座っているから余り言わないが、そういうことをへっちゃらで言っている。潰れりゃあ潰れてもよろしいと、この間も言ったよ、商工会議所、商工会、潰れたら仕方がないと。どちらかに集約されたらそれで結構だと、閉鎖すればいい、そう言ったよ。

○梶藤まち営業課長 今回の潰れたらいいという発言についてちょっと、よろしいですか。

私の言い方が多分悪かったかもしれないが、潰れたらいいということの意として言ったわけではないです。方法論として片方がなくなるしか、違う組織なので合併はできませんという話でさせてもらったわけで、潰れたらいいという表現ではないのだけはちょっと御理解いただけたらと思います。

○川崎副委員長 ちょっと問題を整理するのに、商工会と商工会議所の決算書の中身を発表できないか。最終損益の利益が赤なのか黒なのかぐらいは言ってもらっていいのではないか。昨年の決算書に基づいてことしの予算が出ているのではないのでしょうか。

○梶藤まち営業課長 決算上は、赤は出ていないです。資料を出すのであれば、ちょっと用意させていただきますが。

○川崎副委員長 いや、結果だけで、両方覚えてないの。

○田原委員長 決算書についても、決算の書き方はいろいろあると言っていた、相手側もプロだから。そういう中で、市へお願いしているのは、指導員の経費ということで市へ補助申請をしていると。それは会議所にしても別建ての会計で、本会計からそこへ繰入金をして会計処理していると。市側は、何をもって余剰金があると言うのかということが会議所なりの言い分で、あなたたちは十分その辺はよく御存じでしょうが、その辺をしっかりと市長と話をされ、備前市が元気になるように、商工会がよくなるように、観光協会がよくなるようにというのであれば、もう少し市長がじかにそういう人らと話をされたほうがいいということを書いて、私の質疑を終わります。

○川崎副委員長 かわります。

〔委員長交代〕

○田原委員長 かわりました。

○山本委員 470万円か幾らかの残りがあるから、それを組み替えしてから出してあげたらいいのでは、日生の商工会議所へ。お金は幾らでもある、皆あるやつを使うたらいいのに、よその人に12万円も13万円も旅行に来てもらうよりも、やはり地元からだんだんしていかなければおさまりはつかない。備前市の発展はない、ほんまに。

○田原委員長 みんなで元気が出るようにね。

○山本委員 みんなで足引っ張りしていたら、そらようなるものか。

○川崎副委員長 今決算書が一般会計と特別会計みたいに別々の会計にしているのは、それは出してもらったら、今両方で1,000万円だからどういう分け方にするのかわからないが、そういう補助金でやっていけるかどうかの判断が、我々が見るより判断されているわけですよ、そちらで。いけると見ているのか。それとも、本当に指導員か何かの人件費が全くなくて預金を崩しているのか、執行部はどういう見解を持っているのか。

○梶藤まち営業課長 先ほど田原委員長が言われたように、決算上は他会計からの繰り入れとか基金の崩しという形でマイナス決算にならないような形での処理をされています。それについて

は、やはり通常小規模事業者の事業ということでの市の補助金ということなので、繰り入れる部分については本意でないというような話は伺っています。確かに、そうではないかなとも思っていますが、金額については今後またお話し合いをしながら、再来年度以降ですか、決めさせていただきたいと考えています。

○石原委員 委員の御意見があればということだったので、つくづく僕自身地味な議員だと思うが、よく本当に備前市の実力というか、現状を見きわめて進めていただきたい。特にきょうも議論の多かった商工費、この商工費の中で観光費、商工振興費、どれだけ市が最前線に出て手だてをするかというところをしっかりと見きわめていかないと、地域活性化、地方創生まきしくこの商工振興、観光費のところにはずばりスポットが当たる分野だと思う。この中でどの事業が本当に備前市にとって優位であってというところをしっかりと、今回も提案があるが、ぜひ来年度1年間しっかりと精査をする期間にさせていただいて、いくら頑張ってももう観光立市というのは備前市では到底無理ですから、京都でもないし、東京でもないわけだから、だからそのどこで基準を決めてつくるのかというところをしっかりとやっていただきたいし、計画立てという話があったが、確かに計画も必要でしょうし、どういう形で今後備前市が進んでいくのかというところをしっかりと見きわめて進んでいただきたい。

観光、産業と含めて言えば、備前焼が当然大きな産物だが、所管は違うが、しっかりこのあたりは新しくできるふるさと納税課としっかりとタグを組まれてというか、しっかり備前焼業界とも連携を図って、もうふるさと納税なんか特に一番のチャンス、経費のかからないところでPRもできて、売上増も図れるところだと思うので、しっかりふるさと納税のほうも進めていただきたいと思う。これは一つの意見です。

○田原委員長 観光はこれぐらいでよろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ほかのテーマで。

○尾川委員 いろいろ意見も出て、観光はほっておけばいいというわけではないが、まず自分たちの生活ができて、住みたいと思うためには、やはり最近私も気がついたが、今さっきもこれ読みました。そしたら、備前緑陽の子はICOCAが使えない、赤穂線は便数が少ない、そういうことがやはり出てきているわけです。私の一般質問に対して、これだけ人が減ってきていて、何か考えているのかと言えば、いや、市長はこれでやっていますということで、今話を聞いていても、赤穂線の増便なんか全く考えていないような感じです。それよりよそから人を呼んできて観光、観光というて、こっちが金を使うぐらいのことです。

ちょっとそのあたり、もう少し冷静に考えて、やはり国道2号も兵庫県がずっと有年まで4車線で来ると、備前市内に入った途端に2車線で渋滞する、少しは渋滞するぐらいがいいが、やはり施策評価シートを見ても、最初のうちはそういうことを書いていたが、歩道も大事だけど、やはりメインの車が通る道をどうしていくのか、それから浦伊部の開発をどうこう言うわけではないが、高橋部長の提案あった都計道路の利用と、あれだけの反対運動があり十字路はもう諦めない

といけないから、そういう方向転換をしながら備前市の道あるいは交通手段、いろんなことを、今こんなことを言う時期ではないかもわからないが、そういうことをやはり考えてやってほしい。

それで、浅川までは何とか4車線になるでしょう。だけど、こっち側は全く、歩道ができたり、伊部の十字路周辺も歩道の改修が終わればあれで手をつけないと思っている、私は。そういうことになれば、また別に方法を考えて、備前市が考えて、陳情、期成会の予算も減ってきているし、金を使うのがいいわけではないが、お願いするすべがなければ仕方がないと思うので、そういうことをちょっと再出発というか、これから28年度の計画が立って、予算も立っているが、少しそういう面で視点を変えてやっていただきたいと思うが、意見をお伺いしたい。

○高橋まちづくり部長 特に、国そのものが地方創生ということで、ある程度予算的なものを配分というか、そういう形の流れにある状況の中で、いち早く当市においてはその部分に沿ったような形での施策を進めているということです。基本的には、私がかかるとも思っていることが、やはり社会資本の整備、インフラ、これは道路、河川、上下水道、このあたりは、きっちりこれがあるって全体的な形の政策が伴ってくるものというような気持ちを、個人的なことを言うのは適切ではないが、そういう考え方を持っています。やはり、この部分をおろそかにすることはできないというのが私の考えです。ということは、ある程度いろんな国の政策あるが、根本の部分については地に足をつけたような政策というのは地味な部分かもわからないが、粛々としていかなければならない事業であろうと。都市計画道路にしてもそうだと思います。そういうつもりで、やはり将来に残していけるようなものをつくっていく、今から築いていくことが大事なことで思っています。答えになってないかもわからないが、そういう考え方を持っています。

○尾川委員 高橋部長の言葉を私もよく理解しながら、皆さん方もやはり先輩の考え方というものを学んでもらって、備前市の発展というのを考えていただきたいと思うが。

○高橋まちづくり部長 先人たちの築いたものを大事にしながら、なおかつ我々が次の世代へ引き継ぐものを、世代としてつくっていくというのは私どもの責務だという感じで考えています。

○田原委員長 ほかに。

○山本委員 公園整備、今よくしてくれている、いろいろ。この間金曜日にうちの人を40人ほど寄って話をしていたら、うちの学生は金が要るのかな。よそから来ているグループというか、よその方で何か入っている人はただと、うちの子供らは1時間に80円要ると言うてから、そこらは会に入るといえば、1年間に600円か1,000円、幾らか要るかもしれないが、そんなことあるのかな、わかるかな。

〔「運動公園の利用料でしょう」と呼ぶ者あり〕

○星尾日生総合支所長 私が述べることではないが、以前生涯学習課にいたので、ある程度その辺、中学生とかスポーツ少年団は、備前市内なのですが、使用料は無償だと思います。それで、体育館の電灯代とかライン引き、そういったものの出費は要るが、利用料はただと思う、備前市内のスポーツ少年団とか中学生までの利用については。と私は認識しているが、間違っていたら済

いません。

○山本委員 伊里でテニスなどしていたら、何か入っているのではないのか。

○星尾日生総合支所長 クラブ活動するのは、皆無料だと思います。日生のテニスコート、グラウンド、寒河のグラウンドを使うのは。

○山本委員 それ今は一緒でしょうか、久々井も。

○星尾日生総合支所長 一緒だと思いますが。

○掛谷委員 今山本委員が言われて、都市公園、いわゆる久々井の運動場、浜山、また小さい公園がありますね。今ミニ公園なんかは特にもう本当に廃れているわけです。こういう小さな公園の再編はどうするのかという課題があると思う。それが1つ。

また、大きな面で言えば、浜山と備前の久々井の、例えば陸上競技場のトラックは二種かな、この辺問題になっているようだが、その整備はどうするのか、そういう大きなところの再編と小さい普通の公園、それはどういう形で考えられているのか、整備計画とか、そういうものはどう思っているのか。スポーツかな、違うかな。都市公園、どこになるかな。

○平田まち整備課長 私のほうで全てまではお答えし切れないかもしれませんが、最初に言われた小規模な公園というのは、恐らく児童公園の関係だと思います。そうしたものは、所管が保健福祉部になってきます。あと、都市公園ということになれば、これは私のところになります。整備計画というか、当面は新しいものの整備をするといったような具体的なプランはございませんので、当面持っているものの維持管理の計画ということになると思うが、以前に都市公園については長寿命化計画を策定して、それをもとに維持管理していくといったようなものがあるが、このあたりも結構大きな費用がかかるといったような関係で、担当とすれば予算要求しても、なかなかそれが査定の中でつかないといったような状況もございます。ただ、基本的にはそうした計画に基づいて進めていくというものです。私のところで把握できる範囲は、以上です。

○掛谷委員 ちょっと大きな金額で何億円とか何千万円払うのはなかなか厳しいが、ふるさと納税に頼るのがいいと思うが、久々井のサッカー場と陸上競技場の三種かな、あれは。陸上競技場のトラックがでこぼこで公認が取り消されるという話を聞き、そういうことがあっていいのかなと。その予算が大きければ年次的にやはり貯金をするなりどうするのか、その辺のところも長期的に改修していくんだと、改修するのは一気だけど、積み立てをするとか、しないとできないと思いますね。特に、大金が要るようなものについては、なかなか年次的にはできないと思う。だからといって2年、3年かけてやるようなものでもないし、そういうものをどう考えるかということをやはりちゃんと考え方を示していかなければ、計画というより考え方をきちっとしないといけないと思う。そういうものはどうでしょうか、そういう話は。お聞きしたい。

○平田まち整備課長 通常の維持管理というか、古くなってきたものを修繕していくというのは先ほど申し上げた長寿命化計画の中で対応していくわけですが、おっしゃられている陸上競技場の公認のための対応というのは、また少し位置づけが違ってきます。そうした競技のための運営というのは、こちらではなくて所管が文化スポーツ課になるということで、そちらで対応を進め

ているものです。実際、工事をするとすれば、実務については私のところに委託が来たりするわけですが、そうした運営計画といったようなものについてまでは、ちょっとこちらでは把握をしていないので、申しわけございませんが、何ともお答えのしようのないところです。

○田原委員長 それでは、所管事務はこんなところでよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で所管事務調査を終わります。

以上で、総務産業委員会を閉会します。

午後3時45分 閉会